

第9回 高梁市地域防災力向上委員会 発言要旨（主なもの）

日時：令和5年11月21日（火）

15時00分～16時20分

場所：高梁市役所本庁 3階大会議室

1. 開会

2. あいさつ

（三村委員長）

委員の皆様方、さらには市民の皆様の意識や活動への参加、また事務局が精力的に動いていただいたことなどによって、ようやくこの第9回防災力向上委員会までこぎつけることができましたことをまずは御礼と感謝申し上げます。今日は、最終的な内容の議論に入っていきますが、なんとかきれいな形に収めたいと思っております。委員の皆様のご意見をお聞きしながら進めてまいりたいと思っておりますので、進行につきましてもご協力のほど、どうぞよろしく申し上げます。

3. 議題【各項目についてそれぞれ事務局から説明後、意見交換】

（1）市長へ提出する調査報告書について

<意見交換>

（神田委員）

皆様の知恵を集結して、みんなの力でこの素晴らしいものが出来て本当によかったと思っております。いろいろな知恵とか工夫とかが本当に散りばめられていると思います。とにかく、皆さんで仲良く、お互い許し合いながら、温かい地域を作っていくということに気付けたのではないかと思っております。ますます高梁市の防災力が上がりますことを祈念しております。防災士の立場としては、災害に強い人材を育成していくということを一步一步進めていただけたらと思っております。

（横林委員）代理 加藤

社会福祉協議会は、災害時には市からの要請により、災害ボランティアセンターを立ち上げ、活動をします。今年は平成30年7月豪雨から5年が経つということで、この5年間を振り返っていただき、新たに進んでいこうということで、11月に防災まつりを開催しました。平常時の活動としては、1つは災害ボランティア養成講座を行っています。いざという時のために災害ボランティアを育てていくということをしてありますが、災害から年月が経つことによってなかなか進まないのが実態としてあります。また、もう1つ行っていることが、災害ボランティアセンターの設置訓練です。今年度も実施予定としてありますが、いざという時に動けるような形で机上ではない訓練をしていくことです。

そして、災害に備えるという点で、市と青年会議所さんと災害協定を結ばせていただきました。また明日、高梁ライオンズクラブさんとも結ばせていただく予定としております。今後もいろいろなところと災害協定を結ばせていただいて、災害に備えたいという思いがありますので、来年度も進めていこうと考えているところです。

(三村秀樹委員)

山口前委員の後を継いで、途中からこの委員会に参加させていただいておりますが、毎回委員会の度に自主防災組織が増えていて、素晴らしいなと思っております。合併の関係で少しレギュラーではありますが、公民館長が地域の防災に直接関わっている地域と、そうでない地域があり、その部分で温度差があります。しかし、公民館としては、公民館活動を活発にすることによって、人と人が日頃から繋がっていくことが「共助」にも繋がると考えております。そういった面で、今後も各公民館で公民館活動を活発にしていくことで、防災力の向上に繋がればと思っておりますので、直接的には防災活動に関わることが出来ませんが、人と人の繋がりの公民館として、「共助」のお役に立てればと思っております。

(西田委員)

これだけ地域をあげて、毎年取り組んでいただいているということにすごく感銘を受けておまして、素晴らしい取り組みをなさってくださっているなというのがまず印象としてあります。それから、歴代の地域の方々や、委員長・副委員長をはじめとする歴代の委員の方々の知恵と工夫と、行動力を結集されたものでここまで作り上げられてきているということですが、非常に難しいことだと思います。これだけのものをしっかり継続してやっていくということが、これからは大切になってくるのかなと思っております。

(菅野委員)

委員会への参加は今年度からですが、皆さんの生の声を直接いろいろと聞かせていただいて、大変勉強になりました。報告書については、かなり精力的に活動されてきたことがきれいにまとめられているということで、敬意を表したいと思っております。平常時から災害時までの取り組みが報告書の中でも述べられておりますが、平常時の取り組みとしてこの委員会の活動は意義の高いものだと思います。委員会自体は今回で最後ということですが、これをベースに今後も皆さんと連携させていただいて、防災に関わっていきたいと思っております。

气象台としても、正確な情報を早く出せばいいのですが、科学技術にも限界がありまして、予測も時間の経過につれて変わってきますし、予測されていなかったことが起きてしまうこともあります。その辺は、十分に連絡連携、情報交換等させていただきながら防災対応させていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

(末永委員)

報告書の中にも反映いただいておりますが、高梁市の皆様方がまずは「自分ごと」として、考えていただかないといけない。基本的には「自助」「共助」、最後に「公助」ということで、やはり「自助」「共助」なくして「公助」はない。例えば、「自助」「共助」が出来ていなく

て、すべてが「公助」でとなってくると、結果的には助けられる命も助けられなくなる可能性があるということになってしまう。なので、初期のところでは皆様が「自分ごと」として防災について向き合うことがすごく大事だと思っておりまして、長い時間がかかりましたが、まとめ上げられたということはまずもって感謝しかありません。あとは、自主防災組織も増えつつありますので、パッケージが出来て終わりではなく、まさにこれがスタートです。

河川事務所としても、川の防災情報やキキクルなどからの情報の取り方などの出前講座のようなこともしておりますので、ぜひお声掛けいただき、ぜひそういった意味で行政を使っていたらいいと思います。

(中村委員)

この委員会に参加させていただいて、「自助」「共助」この2つを本当に考えました。北山町内には3つのため池があり、とても危険だということで自主防災会を立ち上げると、すぐに地域住民がみんな参加しました。反対に、このため池が無かったら、誰も自主防災会に入っていないと思います。各町内会に危険な箇所が必ずあると思うので、そこをピックアップして、自主防災会に入るように、立ち上げるように促していけばいいのではないかと思います。

また、地域の消防団員はその地域の道や地理をよく分かっているので、自主防災会に組み込んでいただきたいです。命令系統が違うとのことで、難しいのかもしれませんが何か考えていただければと思います。

(加藤委員)

我々消防団は、「自助」「共助」「公助」のどの分野にも所属しており、災害が起きたときにどの分野で活動するかということは、その時々災害の様子によって変わるので、地域内だけで活動というわけにはいかないことはご理解いただきたいと思います。

この委員会が始まったおかげで、自主防災組織が増えてきております。今、消防団員は市内で1191名、うち機能別団員256名となっており、5年前と比べると、消防団員は253名減、うち機能別団員は19名減と大変減少しております。消防団員が減少している中、自主防災組織が増えていくことで我々消防団としては、お互いを信頼して、災害時や訓練等で良いパートナーとして活動していけたらと思っております。自主防災組織には、消防OBの方が大勢おられて大変心強いので、自主防災組織と消防団で良いパートナーという方向で進めていただきたいと思っております。

(三村繁美委員)

女性消防団は、平常時に、啓発劇を発表したり、幼稚園などに啓発活動に行ったりすることしか出来ないのです。もし災害が起きて出動したからといって、女性消防団として何をすればいいか分かりません。愛育委員さんや民生委員さんや日赤の方がおられる中で、その方々についていくのか、反対に私達が連携をとって炊き出しなどが出来るのか、そういった命令系統や順番がはっきりしてないので、災害時に困ってしまうというのを聞いております。

(三村委員長)

この議論は、発災した際に誰がリーダーシップをとったらいいのか、愛育委員なのか民生委員なのかなど、地域によっても仕組みが違うという話も以前あったように思いますが、事務局の引き続きの課題として、自主防災組織設立・活動マニュアルを各地域に持って入るときなどにも整理していただいて、また発災した後の避難所での役割なんかも含めて整理が出来てくると、より地域の皆様方が自信を持って活動に参加いただけるかもしれません。重要な提起ありがとうございました。

(吉原委員)

まずは、このような素晴らしい委員会に青年会議所として、参画させていただいたことを会を代表して御礼申し上げます。ありがとうございます。青年会議所はマイ・タイムライン作成支援をずっとさせていただいてきましたが、市や社会福祉協議会さんの協力を得ながら、かなりの回数の講習に行かせていただいて、個人としてもすごく有意義な時間を過ごさせていただきました。ただ懸念もありまして、やっぱりマイ・タイムライン作成はまだまださわりの部分で、本質の部分はやはり自主防災組織であったり、もっと深いところに入り込んでみっちり避難計画であったり、地域ごとに個人の計画を作っていくというのが大きなところになってくると思うので、今後もいろいろなところと協力しながら、参画していければと考えています。

個人的な市民としての意見でいえば、今後住んでいく高梁市において、こんな素晴らしい防災についての調査報告書が出されていて、一市民として本当に安心もありますし、またこれに慢心せずこれからもっと広く市民に行き渡るようになれば、より安心して住めるようになると思いますし、高梁市としての魅力も上がってくるかなと思いました。

(蜂谷委員)

委員の皆様のお力やお知恵が詰まっていて、本当に素晴らしい報告書が出来上がっていると思います。何よりも委員長、副委員長が実際に現地に行ってください、その地域の方々と一緒にお作りいただいたというところが大変大きなことだと思います。高梁市の地形にしても地域のコミュニティのかたちにしても本当に多様なかたちがあります。その中で何をしたらいいのかずっと分からないままできていて、平成30年7月豪雨があつて初めて「自分ごと」として考え始めたところに、この委員会設置という動きはすごくタイムリーで、だからこそ、ここまでの成果も上がったのだと思います。特に自主防災組織設立・活動マニュアルはすごく良いものが出てきていると思っていて、今ある31の自主防災組織の設立数をここからどれだけ伸ばせるのか、ということに関しては、私どもも出来ることあると思っておりますので、ぜひ今後も市と皆様方と一緒にやっていけたらと思っています。

(藤井委員)

前任より引き継いで、途中からの委員会参加でしたが、改めて、いろいろな活動をされてこられたのだなと感じました。特に、先ほども言われていましたが、実際に地域に入って、地域の方といろいろなお話をする中で、地域の方に「自分たちが何かをしないとイケない」

と感じてもらえたことが非常に大切だと思います。そして、これを継続していくことや、風化させず語り継いでいけるような状況が続けていかないといけないと思っています。

教育委員会としては、この地域で災害が起こったことももちろん、災害にどう対応していくのかということも含めて、幼い頃から少しずつでも身近に感じてもらえるような教育をしていかないといけないと思っております。あとは、多くの学校が避難所に指定されているわけですが、どうしても学校施設の統合や廃止などといった中で、今後どうしていくのかということについては課題だと思っています。

(内田委員)

平成30年7月豪雨では、本当に水の怖さを身をもって体験しました。マンパワーではどうすることも出来ず、安全なところからただ眺めているだけで何も出来ないという経験もしました。マスクの着用が個人の自由になってきたころから、各地域での訓練にも呼ばれるようになり、コロナ前よりも回数が増えているように感じています。早め早めの避難を呼びかけておりますが、これはだんだん浸透してきていて、地域の皆さんがいろいろなことを感じてきてくださっているということを私たちも感じています。今後は、高齢化はやはり避けては通れないので、若い世代へのバトンタッチを考えていかないといけないということをお願いしていきたいと思っています。また、この委員会では皆様のいろいろな立場からの貴重なご意見を聞かせていただいて、大変勉強になりました。ありがとうございました。

(氏原副委員長)

報告書の内容を紹介いただいた中で、改めて素晴らしい活動を4年間にわたって続けてきていただいたと実感させていただきました。一方で、委員の方からも声がありましたが、この4年間は準備期間だということです。作成してきたマニュアル等がきちんと運用されてこそ、この4年間の意味があったと再認識できるものと思っています。

あとは、先ほど消防団と自主防災組織の関係性について課題が残っているというお話がありました。良きパートナーとして高梁市の防災を守っていくために、関わり方を含め、引き続き検討いただければと思います。

(三村委員長)

それでは、議題(1)につきましては、以上といたします。この内容で成案とさせていただきます。ありがとうございます。

(各委員)

異議なし

(三村委員長)

全会一致でこの案を成案とさせていただきます。ありがとうございました。

(2) その他

事務局より、10月29日(日)に実施した自主防災組織モデル地区の現地指導等の内容とワークショップで出た意見等を紹介。

また、この委員会を通じて、マイ・タイムライン作成などご協力をいただき、昨年度「防災功労者防災担当大臣表彰」を受賞された高梁青年会議所さんが、今年9月15日に首相官邸で「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞されたことをご紹介します。

4. 閉会

(氏原副委員長)

地域防災力向上委員会に4年間という長い間、参画いただきましてありがとうございます。第1回目の委員会が4年前の11月に開催され、その後長いコロナの時期に入ってしまう、防災に関する活動も、この委員会自体も開催できない時期がございました。一方で、現地へ行かないわけにはいかないという三村委員長の強い思いもあり、対策をとりながら現地に行かせていただき、実際に地区防災計画を策定するという事に携わらせていただきました。最終的には、自主防災組織設立・活動マニュアルの完成までに委員の皆様方のいろいろなご意見をいただきながら、修正を行ってきました。この4年間はいくまでも「防災都市たかはし」に向けた準備期間だと、本番はこれからだと、そう思っております。地域の方々を中心にしっかりと防災計画を作成し、運用し、そして改善を続けていっていただきたいと思っております。

最後になりましたが、委員の皆様や歴代の委員の皆様に高梁市の防災に携わっていただいたこと、ご尽力いただいたことに感謝、御礼申し上げます。ありがとうございました。